

慶應義塾大学商学研究科

Keio University
Graduate School of Business and Commerce

大学院進学のおすすめ



Graduate Schools

大学院と聞くと、一般には研究者養成機関というイメージがあり、自分とは無縁の世界と考えている人も多いのではないのでしょうか。たしかに、研究者養成は大学院の重要な責務ですが、最近では2年間の修士課程の修了後に実社会に出て、会計人や公務員など専門職業人として活躍する人も少なくありません。このことは、現代の社会がさまざまな分野で高度な専門知識をもち、自分の頭で問題解決をしていくことのできる人材を求めていることとも無関係ではありません。一度企業等に就職した後に、大学院で勉強する人も増えてきています。また、大学院でさらに博士課程に進学した後、博士学位を取得し、国内外の大学をはじめとする研究機関で働き、自らの研究テーマをライフワークとする選択肢もあるでしょう。将来の進路を考えるに当たって、大学院進学を選択肢の1つに加えてみてはどうでしょうか。

この「大学院進学のおすすめ」は、大学院の入門的な資料として、慶應義塾大学商学研究科の概要を分かりやすくまとめたものです。大学卒業後の進路を考える参考のひとつにしてください。この冊子を読んでさらに大学院や商学研究科に興味をもった人は、慶應義塾大学のWebサイトやパンフレット（「商学研究科案内」）などで詳細について確認することをお勧めします。

The Graduate School of Business and Commerce

— 慶應義塾大学大学院商学研究科はどんなところ？

慶應義塾大学大学院商学研究科は、経営学、会計学、商業学、および経済・産業に関する学問分野（ファイナンス、国際経済学、労働経済学、環境経済学、保険論、計量経済学、産業関係論、産業史・経営史など）を専門領域とする研究科です。2年間の修士課程と、それに続く3年間の博士課程があります。豊かな学識を備え、社会のリーダーとして活躍しうる自立した研究者・プロフェッショナルを養成することを教育目標としています。

Master's Program

修士課程

— 商学研究科修士課程はどんなところ？

商学研究科修士課程では、指導教授のもとで2年間かけて修士論文の作成を行い、2年間で32単位を取得することを修了の条件としており、その過程の中で豊かな学識と研究者マインドを鍛錬していきます。カリキュラムは企業や消費者の経済行動についての基礎的理解を得る科目から、専門科目、そして修士論文作成指導に至る体系的なものとなっており、少人数制の演習形式の授業が中心となります。

カリキュラムがカバーする専門分野も幅広く、ファイナンス、統計学基礎理論、経済数学基礎理論、マイクロ・マーケティング論、マクロ・マーケティング論、産業組織論、リスクマネジメント論等の多彩な科目群を用意し、企業の財務部門や経営企画部門、官公庁やシンクタンク、コンサルティング会社等に就職した際にも活用できる広い学識を深めることができます。

Doctoral Program

博士課程

— 商学研究科博士課程はどんなところ？

商学研究科博士課程は、大学教員をはじめとする研究者の養成を目指しています。そのため、将来にわたって研究者および教育者として自立して活躍できるための能力と識見の訓育がカリキュラムの基本となっています。博士課程の学生は、研究者への準備期間として、学会報告や学術論文雑誌への投稿を経験しながら、自らの研究を深め、博士論文の完成を目指します。

Admission — Master's Program —

— 商学研究科修士課程に入学するには？

修士課程には、一般入試・AO選抜入試・留学生入試があります。一般入試・留学生入試では、出願時にTOEFL iBT「80」以上のスコアを提出することで、「英語」の筆記試験が免除されます。

一般入学試験

*TOEFL iBT「80」以上のスコアを提出することで、「英語」の筆記試験が免除されます。

- <第一次試験>
筆記試験（英語、および分野別試験）
- <第二次試験>
口頭試問（面接）

■成績優秀者には、飛び級入学のチャンスも

本学商学部第2学年までの成績が上位5%以内の成績優秀者は、3年次に一般入試を受験することができます。このことにより、3年生終了時点で大学院に飛び級で入学することもできます。

外国人留学生入学試験

*TOEFL iBT「80」以上のスコアを提出することで、「英語」の筆記試験が免除されます。

書類選考の後、一般入学試験と同様の試験（第一次試験・第二次試験）を実施します。

AO選抜入学試験

例年7月に試験を実施するA日程、12月に実施するB日程があります。いずれも書類審査による第一次試験、口頭試問（面接）による第二次試験を実施します。なお、AO選抜入試は以下のⅠ～Ⅲのいずれかに該当する方が対象となります。

I	本大学学部からの自己推薦者（3年次までの成績が所属学部で上位20%以内※） ※2017年度入試（2017年4月入学対象）参考：商学部生の場合、3年次までのAの個数が39個以上（自由科目を除く）
II	本大学商学部卒業生からの自己推薦者（卒業後10年以内で、4年次までの成績が商学部で上位20%以内※） ※2016年3月卒業の場合：Aの個数が46個以上（自由科目を除く）
III	専門的な知識や経験を有する者 ①調査・研究業務に3年以上従事し、研究業績（著書・論文・報告書）を有する者 ②公認会計士試験合格者、旧公認会計士試験第2次試験合格者（または公認会計士） ③税理士試験合格者（または税理士） ④司法試験合格者、旧司法試験第2次試験合格者（または弁護士） ⑤公務員として3年以上の実務経験を有する者のうち、次の（ア）～（ウ）のいずれかに該当する者 （ア）国家公務員試験総合職またはⅠ種合格者 （イ）国家公務員試験一般職またはⅡ種（同等の試験を含む）合格者 （ウ）地方公務員上級試験（同等の試験を含む）合格者

*上記の出願資格は簡略化して記述していますので、詳細は必ず入学試験要項で確認してください。

Admission — Doctoral Program —

— 商学研究科博士課程に入学するには？ *一部対象の方は、TOEFL iBTのスコア提出が必要です。

博士課程の入学試験は、2月から3月にかけて実施する一般入試のみとなります（AO選抜入試等は実施していません）。一般入学試験は、論文審査を第1次試験とし、第2次試験として口頭試問（面接）が課せられます。また、TOEFL iBTのスコアを利用し、総合的な合否判定を行います。

ただし、2018年4月入学対象の入学試験では、2018年3月に本学商学研究科修士課程を修了予定の者（2014年4月以降に入学した者）は、博士課程の出願時にTOEFL iBTのスコアを提出する必要はなく、論文審査（第1次試験）と口頭試問（面接）（第2次試験）により合否を判定します。

Globalization

— 商学研究科でのグローバル化の取り組みは？

商学研究科では、教育のグローバル化に向けて、次のような取り組みを行なっています。

国際交流

■海外の大学2校との交換協定

商学研究科は、以下の2つの大学と独自の交換協定を結んでいます。

- University of British Columbia, Sauder School of Business (Vancouver, British Columbia, Canada)
- Copenhagen Business School, Department of International Economics and Management (Copenhagen, Denmark)

商学研究科の学生は、この2校への派遣留学生に優先的に応募できます。また、交換留学の場合、商学研究科への学費を納入することで、派遣先大学での授業料は免除されます。派遣の際には商学研究科から渡航費補助も支給されますので、費用面でのサポートを受けて留学をすることができます。派遣された学生は、交換学生もしくは研究生として、派遣先の大学院正規生と同様に、授業、セミナー、プロジェクトに参加でき、取得単位は帰国後に認定することもできます。

■CEMS MIMプログラムの提供

商学研究科は、経済学研究科とメディアデザイン研究科と共に、CEMS MIMプログラムを提供しています。CEMSとは、ヨーロッパを中心とする世界トップレベルのビジネススクールとそれを支える多国籍企業の国際的ネットワークです。また、CEMS MIMとはCEMSが設置する国際経営学修士コースです。このプログラムに参加し、2つ以上の国で大学院教育を受けるなど所定の要件を修めることで、慶應義塾大学商学研究科からの修士号とあわせて国際経営学修士の学位が取得できます。

— 国際交流の場を活用するためにはどんな準備が必要？

言うまでもありませんが、留学を検討する場合や、グローバル化された教育プログラムを活用しようとする場合、その基本となる英語の能力は欠かせません。商学研究科においても、一部の入学試験において、TOEFL iBTのスコアを利用し、プロフェッショナルとして研究を深めていく素養を身につけているかどうかを判定しています。また、このTOEFL iBTをはじめとする英語能力試験は、交換留学やCEMS MIMプログラムへの参加の選考にも用いられます。例えば、商学研究科での交換留学では、TOEFL iBTのスコアでは90～100以上が求められます。また、CEMS MIMプログラムへの応募にもTOEFL iBTのスコアでは100以上が求められます。

TOEFLなどのスコアアップを目指すためには、慶應義塾大学外国語教育研究センターが開講するTOEFL講座等を受講するのも良いかも知れません。比較的リーズナブルに講座を受講することができます。

カリキュラムのグローバル化

■英語による科目の提供

商学研究科は、国際社会で活躍できる専門家を育成するために、一部の科目を英語により実施しており、修士課程では30科目以上を提供しています。さらに、いくつかの科目を外国人講師が担当しています。英語による専門分野の学習、研究成果の報告、ディスカッションなどを行なうことで、国際社会に必要な能力を身につける良い機会となるでしょう。

■ダイバーシティの創出

上述の科目群は、日本人学生のみが受講するものではありません。留学生入試により商学研究科に入学した外国人留学生をはじめ、世界銀行プログラムにより税務行政の専門家を目指す発展途上の留学生、その他CEMS MIMプログラムや交換留学等で慶應義塾へ留学してくる学生が参加します。さまざまな文化や価値観を背景にもった学生たちが共に学び、ディスカッションをしていく中でダイバーシティ（多様性）が生まれ、グローバル感覚を養う刺激的な場となるのです。

Careers after Graduation

— 商学研究科を修了した後の就職・進路は？

社会が成熟し、さまざまな分野で問題が多様化するにつれ、一般の企業や官公庁、シンクタンク等において、大学院で専門的な知識を習得した人材が求められるようになってきています。こうした状況の中、商学研究科の修了者も、社会の様々な現場で活躍しています。

修士課程修了者の進路	あずさ監査法人、伊藤忠商事、会計検査院、産業能率大学、サントリーホールディングス、日本経済研究センター、日本貿易振興機構、農林中央金庫、富士通、読売新聞 他
博士課程終了者の進路	医療経済研究・社会保険福祉協会、SMBC日興証券、九州大学、慶應義塾大学、JSR、東洋大学、トーマツ、博報堂、福島大学、三菱経済研究所、立教学院、立命館大学 他
研究者養成のための支援	商学研究科では、将来の研究者育成のための助教（有期契約教員）の制度を設けており、修士課程2年在学中、あるいは博士課程在籍3年以内の者が応募できます。採用された者は、一定期間内に、本塾商学部専任講師の審査を受けることができます。2018年4月採用の募集は2017年夏以降にご案内します。

Scholarships

— 奨学金はどのようなものがあるの？

学内では成績優秀者や経済支援が必要な方への給付型奨学金を充実させています。新しいものでは、「研究のすゝめ奨学金」(※)を2016年度から開始しました。また、学外でも貸与型の日本学生支援機構奨学金などがあります。

奨学制度はWebサイト (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/shogaku/index.html>) で詳しく案内しています。

※「研究のすゝめ奨学金」について

慶應義塾大学大学院「研究のすゝめ奨学金」は高い研究意欲を有し、将来優れた研究業績が期待できる学生に給付される奨学金です。商学研究科では、飛び級による入学者を除く修士課程1年生を対象とし、入試選考結果をもとに格段に成績優秀で、優れた研究業績が期待できると認められた者に支給します。なお、AO選抜入学試験においては、本学商学部出身者を選考の対象とします。また、奨学金受給者人数は年度により異なります。

More Information

— 商学研究科についてもっと知りたい時は？

商学研究科のカリキュラムや入試など、もっと詳細な情報を知りたい場合には、以下の情報を参考にしてください。

研究・教育、カリキュラム等	大学院入学案内サイト 商学研究科サイト	http://grad.admissions.keio.ac.jp/ (研究科の概要やパンフレット(PDF版)を掲載) http://www.fbc.keio.ac.jp/graduate (教員紹介等を掲載)
入学試験	以下のサイトで入試の概要を掲載しています。また、5月上旬頃より各種入学試験要項をダウンロードできます。 修士課程一般入試 修士課程AO選抜入試 修士課程留学生入試 博士課程一般入試	http://grad.admissions.keio.ac.jp/sho-m.html http://grad.admissions.keio.ac.jp/sho-AO1.html http://grad.admissions.keio.ac.jp/ryu-sho.html http://grad.admissions.keio.ac.jp/sho-d.html
連絡・問合せ	慶應義塾大学学生部 ●カリキュラム等に関するお問合せは…商学部・商学研究科担当 E-Mail: mita-gakuji-sho@adst.keio.ac.jp ●入試に関するお問合せは…大学院入試担当 E-Mail: grad-admission@adst.keio.ac.jp	〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 TEL: 03-5427-1558 (土日・祝日を除く8:45~16:45) TEL: 03-5427-1067 (土日・祝日を除く8:45~16:45)